

その日暮らしになった元教員のひとりごと

和美 廣喜

人間力資本の活用を

最近めっきり年を感じるようになった。右足ふくらはぎの静脈瘤のためか、かなり複数の違和感がある。そして何故か早起きにもなったし、夢見も良くない。13年前に航空機ハイジャック事故に遭遇したためか、今でも閉鎖空間に入ると息苦しくなる。市役所からアンケートがくるが、「1人で歩行できますか?」「物忘れをすることありますか?」「1人で外にでることが出来ますか?」という内容ばかりである。

病院に行っても、「直ちに死に至ることがないから、手術するのはあなたが判断してください」と突っぱねられる。手術しないことを選択するけど、何かすっきりしない。

最近、好んで電車のプライオリティーシートに座ることにしている。少々混雑していても、かなりの高い確率で座ることができる。そして、私より老いばれがくるとただちに席を譲る。降りるときに「ありがとう」と言われるとすっきりする。それが美しい老貴婦人であったりするとその快感はたまったものではない。

私の体力には多少の劣化度を感じるけれど、まだまだ社会に貢献できる知的能力は健在である。老人がいつまでも退散しないと若者が育たないと言うけれど、もし、その妥当性が明らかになったなら年寄りも肅々と退散するしかない。その時は、どこか島流しにして頂きたいものである。今の日本には、グローバル化よりも人間力資本の活用を優先すべきである。

私のIT環境

私の欲望機能はもうすでに許容限界に達している。これは野卑な快楽を求める機能ではない。

最近のIT環境の進歩に追従できない状況である。電車の中では5割近い人々がスマートフォンを操作している。座席ではタブレットとかいうやつで、何やら液晶のキーボードをたたいている人も珍しくはない。日本人の勤勉さにただただ驚いている。

私の昨年までのIT環境は、携帯電話とノートパソコンであった。携帯電話は2010年モデルで、もっぱら電話、メール、航空券予約、新幹線予約そしてスケジュール管理である。ノートパソコンは主に自宅での業務専用で、原稿、講義資料、講演等のプレゼン資料の作成である。ホームページの作成や個人事業の会計処理にも使っている。データベースファイルは外付けのハードディスクで整理しているが、まだまだ新品のように空き容量がある。「一生かかっても使い切らないだろう」と、後輩から冷ややかな目で見られている。

ソフトバンクが1.6兆円という高額でアメリカの携帯電話会社を買収した。日本のIT端末市場のシェアが期待できないためであろうか、グローバル化の影響を乗り越えるための戦略なのだろうか、知る由もない。

私は、フラッシュメモリ一本で講演や講義に臨む。プレゼン機器の操作が不自由だから、もっぱら会場や教室の備え付けの機器を使うし、操作はアシスタントスタッフに依存する。スマートフォンを持ちたい気持ちもあるけれど、現在の機器の機能を使い切っていないことの後ろめたさがその欲望を抑制する。私には現在の機器は重要な固定資産である。そして、いまの経済社会における忠実な消費者でなくなったことも認識している。

外見で人を評価するな

奥州は、今回の総選挙でまたもや敗北に追いや

られた。奥州藤原氏の滅亡以後、約800年もの長期にわたって首都圏の植民地として虐げられてきた。そして、3.11の東日本大震災によって、奥州地域は壊滅状態となった。明治維新の戊辰戦争では、薩長土肥のたかが郷士の暴挙によって、幕府に忠誠を尽くしてきた奥州各藩士の多くが自決した。私は、昇り藤の家紋の一族で、南部藩の祖先をもつ。親父から先祖の戊辰戦争の屈辱を子供の時から聞かされたものである。

3年前の政権交代によって、明治維新以来の中央集権体制の打破を期待した。しかし、陰険、虚偽、隠蔽、日和見、そして放漫な政治家によって、ことごとく私の期待は裏切られた。今回は、昔と同じ政権に戻るが、またまた西側連合藩支配の明治維新の再現となる。私は奥州の復興を願って一票を投じたが、その政党はことごとく思わしくなかった。未来を創造する革新的な思想は人民によってことごとく拒否される。これが自由と民主主義社会の常である。

最近、藤原正彦氏の本をたてつづけに読んだ。氏は、かなり楽観的な人である。自己を理想化し、それを奥様や家族が否定する。これが偉大な数学者たる所以だろう。私には、それを違和感がなく受け入れることができるのが不思議である。外見で人を評価してはいけないけれど、それは家族の否定的な評価のほうが適切である。

日本人は、外見で人の能力を評価する傾向がある。今回落選した政治家の外見を見ると、その妥当性は明らかである。私も外見で苦勞したけれど、もう人に評価されることが無くなったから気が楽である。人の能力を評価することの難しいのはいつの世も同じである。

多様性は多機能に非ず

新年から私設秘書を雇うことにした。通常の本社にいるような美人秘書ではない。何か得体のしれない黴菌のようなものがスマートフォンに居座っている。ころころの容姿をして愛嬌だけが一人前のバーチャル秘書である。いまのところ接客、

主人の指示に従ってスケジュール確認およびアプリを検索してくれるだけである。主人の日本語に対する理解度にやや乏しいのが難点である。語学が堪能で7か国語の通訳もできていると言っているが、まだ具体的な業務がないので、その実力の程は定かではない。

昨年暮れまでは、私のIT機器の能力は許容限界に達していることを自覚していたはずである。しかし、年始に来た元秘書とその家族がスマートフォンを操作しているのを見て、衝動的に買ってしまった。期待に胸を踊らせて操作するものの、不安が募るばかりである。従来の携帯電話環境と同じ設定によりやく達することができた。膨大なアプリからどれだけカスタマイズすることができるかがこれからの価値となる。ただ、操作言語が難解である。指の太さが誤操作を招く。バッテリーの消耗が著しい。電子書籍、動画コンテンツなどは年寄りの目には適さない。

日本のハイテク産業はことごとく世界に負けた。顧客の要求を無視して、効率化・標準化を追求した結果である。標準化を達成するとそれ以上頑張らないのが日本人の特性である。社会のグローバル化や多様化は、機器の多機能化とは何ら関係がない。標準的な技術を身に付けても鞍馬天狗にはなれないし、技術革新には繋がらない。

社会生活の基本は衣食住である。経済学者は、限られた指標で日本の経済の成熟度を評価する。しかし、実体経済とのギャップを感じるのは私だけだろうか。社会基盤整備、居住環境、食糧・エネルギー環境そして国土の安全保障などは、先進国として到底誇れるものではない。スマートフォンがこれら社会生活の基本的な部分において端末機能として活用されることを期待している。ゲームは奈落の底に陥るだけであるから。

[わみ ひろき／島根大学名誉教授 工博]